

地域連携の感染防止対策研修の一環 新興感染症の発生等を想定した訓練の実施



厚生連高岡病院

(富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院)

厚生連高岡病院は、富山県西部地区で最大規模の病院であり、富山県西部地区圏内人口約45万人の三次救急医療を担っています。さらに、北陸では3病院目になる「DPC特定病院群* (旧2群)」に選定され、大学病院に準ずる機能を備えた病院として厚生労働省から認定されています。

病院理念に「患者さんと職員が信頼・安心・満足でき、幸せになれる病院を目指します。」を掲げ、全職員の皆さんが一丸となって、日々最善の医療を提供されています。

高岡病院では、医療関連感染管理部の医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師らのメンバーが中心となり、「感染防止対策合同カンファレンス」を年4回主催されています。去る9月には、本年度2回目の「感染防止対策合同カンファレンス」とともに「新興感染症想定訓練」(N95マスク着脱訓練含む)が行われました。

※Diagnosis(診断)、Procedure(治療・処置)、Combination(組み合わせ)の頭文字を用いた略称で、診断群分類とも呼ばれる日本独自の分類

厚生連高岡病院の 医療関連感染管理部について

感染防止対策合同カンファレンスを主催する医療関連感染管理部は、倫理的で安全な医療を提供するため患者・家族・学生・職員を対象に、感染症・感染制御の専門知識を有する医師や薬剤師等のコアメンバーで医療関連感染を防止する実践的な活動を行う感染制御チーム (ICT) 及び抗菌薬適正使用支援チーム (AST) を組織しています。



医療関連感染管理部メンバーの皆さん

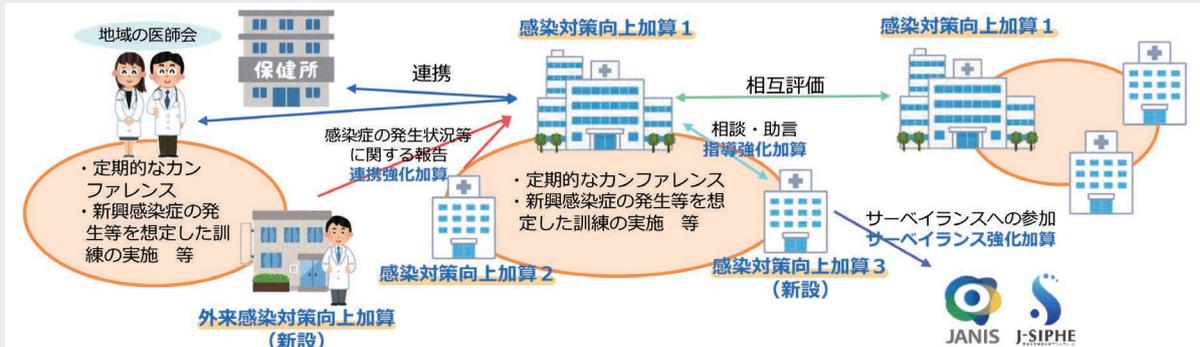
前列 (左から) 薬剤師 辻未希子様、医師 狩野恵彦様、医師 東慶之介様
後列 (左から) 看護師 窪田恵子様、看護師 浦上恵理様、看護師 廣野和子様、臨床検査技師 浦田孝之様



感染対策向上加算について

令和4年度診療報酬改定において、「外来感染対策向上加算の新設及び感染防止対策加算の見直し」が行われました。これまでの感染防止対策加算による取り組みを踏まえつつ、個々の医療機関等における感染防止対策の取り組みや地域の医療機関等が連携して実施する感染症対策の取り組みを更に推進する観点から、感染防止対策加算の名称を「感染対策向上加算」に改めるとともに、要件が見直されました。

その要件として、「定期的なカンファレンス」「新興感染症の発生等を想定した訓練の実施」等が新たに追加されました。



出典：厚生労働省保険局 令和4年度診療報酬改定の概要（令和4年3月4日版）

感染防止対策 合同カンファレンスについて

本年度2回目の感染防止対策合同カンファレンスは9月7日に行われ、約30人の医療従事者が参加されました。最初に高岡市内の2つの病院より議題内容が報告され、厚生連高岡病院の医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師からの助言のほか、活発な意見交換が行われました。

合同カンファレンスの開催目的の一つ
地域連携研修会を通じて、平時から顔の見える関係づくりを構築し、緊急時に迅速に相談・支援が行える連携体制を整備する

次ページでは、「新興感染症想定訓練」の様をお伝えします。

2023年度 厚生連高岡病院主催 感染防止対策合同カンファレンス

- ・日時 2023年9月7日（木）14:00～15:30
- ・場所 厚生連高岡病院 3F 講堂
- ・参加施設 高岡市内2病院、高岡市内15医院
- ・議題 薬剤耐性菌検出状況、感染症患者発生状況、アルコール製剤の使用量
- ・協議相談事項 抗菌薬投与・使用について
- ・講演 感染症に関するミニレクチャー／狩野医師

新興感染症想定訓練

- ・日時 2023年9月7日（木）15:30～16:30
(カンファレンス終了後、同場所)
- ・参加者 15医院18人
- ・内容 N95マスク着脱訓練、N95マスクフィット測定



感染防止対策合同カンファレンスの様子



■ 新興感染症想定訓練について

■ 経験豊富なICNが防護具の着脱訓練を指導
ひとりひとりに手指消毒ボトルと鏡が用意され、
丁寧に指導されました

カンファレンス終了後の想定訓練では、厚生連高岡病院の感染管理認定看護師（以下ICN）の廣野看護師と窪田看護師より、カップ式と折りたたみ式のN95マスク着脱の訓練が実施されました。

参加されたクリニックの医療従事者は、実践演習を行う機会が限られています。とくにN95マスクは装着する時より脱ぐ時に、疲れや暑さなどによって気がゆるむことがあるため、ウイルスが付着しているマスクの表面などに触れないように、より一層の注意を払うことなどが指導されました。

■ 演習の一つとして、マスクフィッティングテスターを用いて漏れ率を定量的に測定

コロナ以降は多くのN95マスクが流通しました。ただしN95マスクは、規格に合格していても、装着者の顔とマスクにすき間をなくしてフィットしなければ意味がありません。訓練ではそれを理解するために「N95マスクフィット測定」が行われ、漏れ率が大きいときにはどの部分からの漏れが大きいかを指摘し、指導されることで、漏れ率が小さく改善されることを参加者に体験していただきました。

【測定ポイント】

- 漏れ率5%未満・・・フィットチェック合格
- 漏れ率が5%を超える場合・・・頭ひもの調節やシールチェックの方法を確認の上、再度測定

【測定方法】

マスクフィッティングテスターによる漏れ率測定では用意されたカップ式と折りたたみ式のN95マスクのいずれかを装着して実施。「カップ式N95マスク」を測定された先生方7人の中で6人の先生方は1回目で合格（漏れ5%未満）。また、1回目に5%を超えた先生は、頭ひもの調整やマスクの位置を上下左右に動かして顔になじませて、2回目の測定を行い改善



研修会参加者の漏れ率
(カップ式N95マスク測定結果の一部)

氏名	性別	漏れ率 1回目	漏れ率 2回目
A氏	女	0.23%	—
B氏	女	17.9%	0.47%
C氏	女	0.51%	—
D氏	女	0.83%	—
E氏	男	1.42%	—
F氏	男	0.47%	—
G氏	男	0.37%	—



測定前にはカップ式N95マスクのハイラック350の特長として、FF（フリーフィット）リップと頭ひもの調整ができることを説明

合同カンファレンスに参加して

■うえせこどもクリニックの上勢院長にお聞きしました

「最近では廉価品のN95マスクが多く流通しているが、規格が通っているだけでN95マスクを選ぶのはリスクがあることを今回の演習で知りました」

年4回の感染防止対策合同カンファレンスだけではなく、常時厚生連高岡病院のホームページから感染防止に係る相談を受け付けてくれるのは助かります。

演習であったN95マスクのフィットテスト測定は、1回目の測定で漏れ率が0.37%と私の顔にフィットしていました。その割にこのマスクは特に息苦しくなく、着けやすいマスクだと思いました。(上勢院長)



測定時にいま使用している保護メガネが曇ることが多くて困っていることを相談したら、ちょうど軽くて曇りにくく、このN95マスクにマッチする保護メガネ(アイケアグラスKE-01)を紹介してもらいました



研修終了後に受講証明書を手にされる、うえせこどもクリニックの上勢敬一郎院長

最後に

■インфекションコントロールドクター (ICD) の狩野先生、および感染管理認定看護師 (ICN) の浦上師長からコメントをいただきました

「感染対策の基本的な考えなど、地域連携で共に学べる機会があることは素晴らしい」

新興感染症想定訓練は、N95マスクの装着訓練と専用の機器を用いたマスクの漏れ率測定を地元の商社を通じてN95マスクメーカーに協力を仰いで実施しています。

特にクリニックの先生方にとってN95マスクは日常的に使用する防護具ではない上、使用される時は適切な装着が必要になってきます。商社やメーカーが持つ情報や留意点などをクリニックの先生方が直接聞くという機会は普段は限られていると思いますので、このような実践訓練は有意義ではないかと考えます。(浦上師長)

抗菌薬の適切な使い方、感染対策の基本的な考え方など、日々の診療に直結する非常に大事な内容をこのような形で、地域の病院やクリニックの先生方、医療スタッフと共に学べる機会があることは素晴らしいと思います。(狩野先生)



合同カンファレンスでの助言、および実践演習で参加したクリニックの先生方に指導された高岡病院ICNの皆さん
左から、廣野師長、窪田師長、浦上師長



左：東先生、右：狩野先生